

科目名	図学				
担当教員	細海 幹人		実務授業の有無	有	
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	CADの利用が多くなっていますが、手書きによる作図も必要な技術です。そのため、基本的な作図方法を段階的に学習して行きます。				
学習目標 (到達目標)	図学の基本を理解し、それに合わせ作図が出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	数字・線①		基本的な数字の書体と実線の書き方		
2	数字・線②		線の種類とその用途		
3	寸法線・数字		寸法記入の原則、数字の位置・大きさ		
4	尺度・レイアウト		図面の大きさに合わせた尺度の決定		
5	第三角法		一番多く使われる第三角法による作図方法		
6	曲線		曲線を描く各種方法 (sin,cosカーブを雲形定規を使って作図)		
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題					
100 %	%	%	%	各テーマごとに講義を行った後、実際に線・数字・図を書いてみます。そのため理解度の判断は提出物にて行います。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社において測量を含む施工管理実務15年				

科目名		基準点測量			
担当教員		稲田 巧		実務授業の有無	有
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	測量業、建設業にとって測量作業の基本であり、重要な分野である。基準点・水準測量の技術が地形測量、応用測量等の測量分野に活用されている。基準点では近年普及が著しいGNSS測量について学習する。				
学習目標 (到達目標)	チルチングレベル、自動（オート）レベルを使った水準測量の結果を計算できるようになる。また、GNSS測量は測量作業自体は単純だが必要最低限の理論を習得してほしい。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	受験テキスト：日本測量協会 公共測量作業規定の準則 他プリント、資料を配布する。				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	水準測量	高さの基準	標高、平均海面及び、水準原点、基準水準点、1・2等水準点、1～4級水準点について学ぶ。		
2	水準測量	方法と機器	直接水準測量、渡海水準測量、経緯儀法について概略をまなぶ。チルチングレベル・オートレベル・電子レベル		
3	水準測量	機器調整法・観測	杭打ち調整法、観測作業の注意点を学習する。		
4	水準測量の各種制限と往復観測計算		水準測量の各種制限（往復制限・環閉合差）と往復観測計算を行う。		
5	水準測量	補正	各種補正、特に標尺補正の計算を行う。		
6	水準測量	平均計算	重量平均による標高の最確値の計算を行う。		
7	GNSS測量の基礎知識		距離計測した場合の観測簿の記入、計算方法を理解する。		
8	GNSSによる基準点測量		GNSS測量機を用いた観測方法を学習する。		
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
	取組姿勢	評価テスト	期末試験		
	%	5 %	45 %	50 %	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。			ぜひ2年次に受験する「測量士補」の国家試験に合格してほしい。勉強を通して測量に関する基礎知識を習得し、測量士補としてふさわしい実力をつけてもらいたい。		
実務経験教員の経歴	測量会社にて測量業務24年				

科目名		基準点測量実習				
担当教員		稲田 巧		実務授業の有無	有	
対象学科		測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方		測量業、建設業にとって測量作業の基本であり、重要な分野である。基準点・水準測量の技術が地形測量、応用測量等の測量分野に活用されている。基準点では近年普及が著しいGNSS測量について学習する。				
学習目標 (到達目標)		チルチングレベル、自動（オート）レベルを使った水準測量の結果を計算できるようになる。また、GNSS測量は測量作業自体は単純だが必要最低限の理論を習得してほしい。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		受験テキスト：日本測量協会 公共測量作業規定の準則 他プリント、資料を配布する。				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	水準測量	器械の使い方・整地		水準測量で使用される器具について学習する。オートレベルの整地の練習、標尺の読定を行う。		
2	水準測量	環閉合・往復観測		オートレベルによる環閉合・往復観測の実施。		
3	水準測量	環閉合・往復観測		チルチングレベルによる環閉合・往復観測の実施。		
4	水準測量	電子レベル・マイクロメータ		※雨天時に校内で電子レベルの観測を行う。また、マイクロメータの読みを行う。		
5	基準点測量	トランシットの据付練習		トランシットを実習地で1人ずつ据え付ける練習を行う。最終的には、5分で整地、求心まで出来るようになる。		
6	基準点測量	トランシットの据付実習試験		据付の精度と据付時間により採点する。		
7	基準点測量	水平角の観測練習		トランシットを据付け、水平角の観測を行い観測手簿に記入し、結果を計算して提出する。		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
	課題	取組姿勢	評価テスト(実技)	実習を通して水準測量・基準点測量に関する技術を習得し、就職時に即戦力になれるよう実力をつけてもらいたい。尚、基準点測量は測量の基本であるため、今後学習する地形測量・応用測量にも活かしてほしい。		
%	30 %	10 %	60 %			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						
実務経験教員の経歴		測量会社にて測量業務24年				

科目名		情報処理実習				
担当教員		渡邊 美歌		実務授業の有無		
対象学科		測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方		プレゼンテーションに役立つ知識を身につける事を目的としている。また前期授業最終週には検定試験を受ける。全員が合格することを目指す。				
学習目標 (到達目標)		PowerPointを使いこなせる力を養うこと。その結果として検定を取得することを目標としている。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		PowerPoint2021クイックマスター、サーティファイ検定対策テキスト、iPad				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	授業の準備			授業データのダウンロードとスキルリサーチシートの入力		
2	プレゼンテーションの作成と文字編集			PowerPointの画面構成と文字の入力、箇条書きの設定について学習する。		
3	オブジェクトの作成			図形描画と編集・ワードアート・画像ファイルの挿入について学習する。		
4	表やグラフの作成			表の作成と編集・グラフの挿入について学習する。		
5	表示効果とハイパーリンク スライドショー			画面切り替えとアニメーション、スライドショー、資料の作成と印刷について学習する。		
6	検定対策			検定対策練習問題を使用し、検定への力をつける。個人的にアドバイスをしながら、合格レベルまで高める。		
7	検定対策 (模擬試験)			検定対策模擬問題を使用し、検定本番と同じように問題を解きながら進める。個人的に弱い部分を見極め、対策する。		
8	プレゼンテーションのカスタマイズ			スライドマスターやセクションの作成など、プレゼンテーションをカスタマイズすることを学習する。		
9	SmartArtの活用			図表をいかに上手に使えるかがプレゼンテーションでは重要。SmartArtを使用して、図表を作成する流れを学習する。		
10	オブジェクトや表・グラフの活用 検定対策			図形や画像の活用について学習する。検定への本格的な対策を開始する。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題	検定結果		最近PowerPointが幅広い使われ方をするようになってきました。検定取得を目標としながら、その中で操作をしっかりと習得しましょう。多くの課題に取り組んでいただくことも多いです。メリハリをつけながら良い授業を一緒に創り上げていきましょう。		
10 %	20 %	70 %	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						
実務経験教員の経歴		企業のデータ処理等の請負業務、雇用対策講座・パソコン教室でのインストラクター業務				

科目名		測量学概論Ⅰ			
担当教員		稲田 巧		実務授業の有無	有
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	前半では測量をこれから学習する上で必要な事柄について概要に触れる。後半については、2年次に受験する「測量士補」の合格を目指し、まだ学習していない分野ではあるが、過去問題を解くことを中心に授業を行う。				
学習目標 (到達目標)	地心直交座標系ITRF94、球面座標系、地球楕円体GRS80、平面直角座標系、ジオイドについて完全に理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	受験テキスト：日本測量協会 測量士補計算問題の解法・解説 他プリント、資料を配布する。				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	測量の定義・目的 測量の一般的分類		基本測量、公共測量、基本測量および公共測量以外の測量を学習する。		
2	国家基準点		三角点と水準点の種類、電子基準点		
3	測量法による原点 測量の基準面		地球の形状、地上の位置の表し方、日本経緯度原点と日本水準原点		
4	測量の基準 測量の基準面		GNSS測量、地球楕円体、GRS80楕円体、平面直角座標系、方位角、方向角、磁針方位角のそれぞれの関係		
5	測量に関する法規		測量法と作業規定の準則を学習する。		
6	評価テスト		1から5までの範囲で行う。		
7	多角観測手簿の練習		水平角、鉛直角の手簿の記入による角度への理解を深める。		
8	距離直読式観測簿		距離計測した場合の観測簿の記入、計算方法を理解する。		
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
	取組姿勢	評価テスト	期末試験		
%	5 %	45 %	50 %	ぜひ2年次に受験する「測量士補」の国家試験に合格してほしい。勉強を通して測量に関する基礎知識を習得し、測量士補としてふさわしい実力をつけてもらいたい。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	測量会社にて測量業務24年				

科目名		土質工学			
担当教員		遠藤 聡		実務授業の有無	有
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	土木分野の基礎的項目の土について学びます。将来の国家資格取得の基本的科目（一般土木）土工となります。				
学習目標 (到達目標)	来年、10月下旬の土木施工管理技士全員合格を目標にします。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	土の基本的性質		土の基礎的性質について解説します。習得状況は、口頭質問、基本問題の演習により確認しながら行います。		
2	土中の水の流れと毛管現象		土中の水の流れについて解説します。口頭質問、基本問題の演習により確認しながら行います。		
3	地中の応力		地中の土に働く応力、載荷重による鉛直方向の増加応力について説明します。口頭質問、基本問題の演習により確認しながら行います。		
4	土の強さ		土のせん断強さについて説明します。口頭質問、基本問題の演習により確認しながら行います。		
5	土圧		クーロン土圧、ランキン土圧について説明します。口頭質問、基本問題の演習により確認しながら行います。		
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	課題	中間試験	期末試験	通常授業では、ノートをとってください。平常点はノートの記載状況を繁栄します。土の基本的性質をしっかり勉強し習得してください。	
α %	α %	50 %	50 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社にて施工管理実務経験 15年				

科目名		建設工学			
担当教員		遠藤 聡		実務授業の有無	有
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方		『一般土木・専門土木編』について学びます。初めて建設技術を学ぶに当たり教科書は、難しい専門用語多く出てきますが、授業は用語の説明を十分行います。授業の目的は、将来国家資格を2年次に受験する事を最終目的として出題科目を絞り分かりやすく理解出来るように構成しました。この一般土木編は、通常の現場でも基礎知識として非常に重要な項目であります。建設現場でも技術者として理解出来るようになります。			
学習目標 (到達目標)		2級土木施工管理技士検定合格のための基礎知識の習得			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		土木施工管理テキスト、配布資料			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	土木概論 (総論)		歴史～現行政～技術等のおおまかな建設業の様子を学習し概略を理解します。		
2	土工		盛土のり面、切土のり面について図解をしながら説明し斜面の勾配標準・保護する工事を理解します。		
3	土の体積変化		土量変化の算出を例題を基に解説し、その後演習問題にて個別にて計算練習を行いより深く理解します。		
4	基礎工		直接基礎・くい基礎・ケーソン基礎について図解をし説明します。また、その特徴と施工方法についても学習し理解習得します。		
5	軟弱地盤改良工事		軟弱な地盤を強化する方法と施工特徴を図解をしながら学び習得します。		
6	コンクリート工		土木材料の復習		
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	中間試験	期末試験	一般土木・専門土木とは、専門技術を必要とする分野です。この授業を理解する事は、技術者の仲間入りする第一歩となるでしょう。また、2年次の国家試験受験では、この項目は最重要項目で確実に点数を取る分野と言えます。頑張って資格取得を目指しましょう。	
α %	α %	50 %	50 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社にて施工管理実務経験 15年			

科目名		測量学演習			
担当教員		稲田 巧		実務授業の有無	有
対象学科		測量建設科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		測量で使う数学についての基礎知識を得る。授業の進捗については、理解の遅い学生に合わせてゆくりと行います。後期授業の前半も引き続き測量学演習を行うが、後期授業の後半については測量士補対策授業を行い試験合格を目指す。			
学習目標 (到達目標)		測量を勉強していく上で基本となる三角関数、比例計算等については必ず理解しておく。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		プリント、資料を配布する。			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	第1章 四則の計算			正 (+)、負 (-) の符号のついた計算・60進法の計算・角度の四則計算を行う。	
2	第2章 式の計算			1次方程式・2次方程式を理解する。	
3	第3章 図形の基本性質			平行線・二等辺三角形・円曲線・接弦定理を理解する。。	
4	第4章 比と比例			比例式・相似条件・2点間の距離を求める公式を理解する。	
5	まとめ			前期の学習範囲のまとめ	
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
	取組姿勢	評価テスト	期末試験	測量の基本は数学の応用です。数学が嫌いにならないでほしい。 測量に必要な数学を学び理解するまで反復練習をおこない演算の実力をつけて「測量士補」の試験対策に活かしてほしい。	
	%	5 %	45 %		
			50 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		測量会社にて測量業務24年			

科目名		土木材料学			
担当教員		細海 幹人		実務授業の有無	有
対象学科		測量建設科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		「土木材料」は種類が多く、しかも多様であり、用いる際は、その性質・特色を十分に把握しておかなければなりません。この授業では特に多く用いられるコンクリート、鋼材、アスファルト（瀝青材料）を中心に学ぶこととする。 1級・2級土木施工技術検定においても重要な分野となっている。			
学習目標 (到達目標)		基本的な材料の種類・特性を学び、一般的な材料であれば、用途に合わせた材料選択が出来るようになる			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		プリント・テキスト (2級土木施工管理技士要点テキスト)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	土木材料の歴史			次々と新しい材料が開発されているが、現在においても主材料となっているセメント・鋼材・アスファルトについての歴史について確認する	
2	コンクリート① フレッシュコンクリートの性質と用語			良いコンクリートはどのようなものか、その判定方法とそれに関係する専門用語について学ぶ	
3	コンクリート② セメント			セメントの化学反応（固化）について理解したうえで、セメントの種類別の特性について学ぶ	
4	コンクリート③ 骨材			粗骨材（砂利）・細骨材（砂）の違いを確認したうえで、コンクリートに適した骨材の選択方法について学ぶ	
5	コンクリート④ 混和材・混和剤			混和材・混和剤の主な種類と用途について学ぶ	
6	アスファルト① アスファルト			アスファルトの種類と特徴について学ぶ	
7	アスファルト② アスファルト混合物			道路舗装に使うアスファルト混合物の基本的な配合や種類、種類別用途について学ぶ	
8	鋼材の種類			鋼材の種類と用途について確認したうえで、種類別の記号や数字の意味について理解する	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	普段の取組姿勢		土については土質工学の科目で学ぶため、この授業では学習しないこととする。	
50 %	30 %	20 %	%	土木材料学は設計者・施工者など、建設にかかわる全ての人が必要な知識であるためしっかり取り組むこと。また、後期にはこの授業で学んだことを実験にて確認を行う。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社において測量を含む施工管理実務15年			

科目名		建設機械			
担当教員	細海幹人・多田剛史		実務授業の有無	有	
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	あらゆる建設工事が機械化施工によって実施されている。そのため、建設機械の選定は安全面・施工性からも重要である。この授業では基本的な選定の方法、機械の名称(呼び名)、特徴について習得する。				
学習目標 (到達目標)	施工管理技術検定試験にてよく出題される事項を完全に理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト(2級土木施工管理技士要点テキスト)、プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建設機械Ⅰ(施工管理法分野)				
2	建設機械の選定基準(走行性・適応距離)		走行する地盤、作業距離に適した機械の選定方法を学習する		
3	建設機械の選定基準(作業種類別)		ショベル系・トラクター系・締固め機械・荷役機械について機械名称と特徴について学習する		
4	建設機械の規格		建設機械種類ごとの規格の表示方法について学習する		
5	建設機械の作業能力計算		建設機械の1時間当たりの作業量の計算方法を学び、施工計画作成に役立つことを理解する		
6	建設機械Ⅱ(共通工学分野)				
7	内燃機関		ディーゼルエンジンとガソリンエンジン、2サイクル機関と4サイクル機関の違いとそれぞれの特徴について学習する		
8	走行装置		クローラ式とホイール式の違いとその特徴を学びます。また、それぞれの型式の中でも用途によって様々な形状があることについても学習する。		
9	ポンプ		ポンプの種類とそれぞれについて学習する		
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験	評価テスト	普段の取組姿勢			
50%	30%	20%	%	国家試験だけでなく、現場での施工管理業務においても建設機械についての知識は重要ですのでしっかり学習しましょう。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社において測量を含む施工管理実務15年				

科目名		水理学			
担当教員		多田剛史		実務授業の有無	有
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	水理学は土木工学における水工学（河川工学、海岸工学、港湾工学、発電水力、上下水道など）の基礎となるものです。授業では建設に用いる水理学の基礎について学習することとする。また、水理計算に使用される単位・大きさについてもイメージできるよう具体的な事例をあげ計算を行う。				
学習目標（到達目標）	任意の水深における水圧、物体（構造物）が浮く・浮かないの判断、マンニングの公式を用い、開水路の流速・流量計算ができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	水の性質と次元		自然界の水の循環、水の物理的性質、密度と重量、単位と次元について理解する		
2	静水圧①		静水圧の性質、ゲージ圧と絶対圧、パスカルの原理を理解する		
3	静水圧②		水平な壁面に作用する水圧、鉛直な面に作用する水圧を計算できる		
4	浮力と浮体		木やコンクリートボックスなどの浮力計算ができる		
5	水の運動①		流量・流速・流積の関係と流積・潤辺・径深の関係、流れの種類について理解する		
6	水の運動②		マンニングの公式を理解する		
7	開水路		マンニングの公式を用い、開水路・円形断面水路の計算ができる		
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末・評価テスト	70 %	普段の取組姿勢 (課題提出)	30 %	%	%
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。			水理学の授業で学ぶ内容は設計業務に限らず、建設工事の施工管理においても活用できる内容である。そのため、しっかりと身に付けるようにしましょう。		
実務経験教員の経歴	機械設計・製品開発者として、職場に17年間関わっていた				

科目名		就職実務			
担当教員	細海 幹人	実務授業の有無	無		
対象学科	測量建設科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	就職活動の流れを確認し、どの時期に何をしなければいけないのかを理解する。また、職種や企業選択の具体的なポイントや情報収集方法についても学習する。				
学習目標 (到達目標)	職種・企業の絞り込みを始めることが出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント、テキスト (サクセス)				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	就職活動の流れ	最近の就職状況と活動の流れを理解し、どの時期に何をしなくてはいけないかを確認する。			
2	就職活動の心構え	働く意義、企業が求める人材、身だしなみを学び、今からやらなければならないことが明確になる。			
3	職業を知る	具体的な仕事をイメージし、その仕事の正式な職種名、その仕事に関係する業種と必要な資格を言えるようになる。			
4	情報収集、企業研究	情報収集方法、企業研究方法を知り、どんな方法があるのか説明できるようになる。			
5	採用試験の選考内容	書類、一般常識、適正、作文、面接等 企業により試験内容が違ことを確認。今から準備が必要なもを確認。一般常識については自己学習開始。			
6	求人票の見方	求人票に書かれてる内容について理解し、それぞれの項目の意味を説明出来るようになる。(職種別の求人票例参照)			
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
評価テスト	普段の取組姿勢				
50 %	50 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)		就職活動を優位に進めるため、就職活動の流れと時期についてしっかりと把握しましょう。一般教養試験対策については早期に自己学習を開始すること。また、この授業科目の中で、NSGカレッジリーグ学生合同の講演会をリモートにて行います。(HOP研修、STEP研修、JUNP研修)			
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)					
D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴					